

証券コード 4651



SANIX

2008年3月期 連結決算説明会

株式
会社 **サニックス**

2008年5月15日

(注)四半期の財務数値は、監査法人による会計監査を受けておりません。
なお、数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

目 次

<u>1. 2008年3月期 決算概況</u>	<u>P. 1</u>
<u>2. 2008年3月期 セグメント別ハイライト</u>	<u>P. 6</u>
<u>3. 2009年3月期 連結業績見通し</u>	<u>P. 9</u>

SANIX



株式会社 **サニックス**

2008年3月期 決算概況

2008年3月期：決算概況

HS事業部門の業績低迷は底を打ち、経常損益は黒字転換。
特別損失として、減損損失などを計上し、当期純損失となる。

売上高	: 26,510百万円 (前期比 91.7%)
営業利益	: 596百万円 (前期は 1,568百万円の営業損失)
経常利益	: 495百万円 (前期は 1,659百万円の経常損失)
当期純利益	: △ 2,547百万円 (前期は 1,930百万円の当期純損失)

■ 主力事業であるHS事業部門の業績が、回復基調で推移

- (1) 同事業部門の売上高は、下半期より前年同期比プラスに転じ、堅調に推移
中間期(前期比97.8%) → 下半期(前期比110.0%) : 通期(前期比103.2%)
- (2) 限界利益率の高い同事業部門の営業利益は、通期4,176百万円(209.5%)と大幅増益

■ 特別損失3,162百万円を計上したことで当期純損失となる

将来の業績リスクを再考した結果、土地の時価が大幅に下落していることもあり、減損損失2,687百万円を計上。

■ 「継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況」注記を解消

事業黒字化への体質転換が十分に達成されたものと判断し、ゴーイング・コンサーン(GC)注記を解消。

2008年3月期：連結損益実績

(単位：百万円)

連 結	2007/3期		2008/3期			
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比	前期比増減額
売 上 高	28,908	100.0%	26,510	100.0%	91.7%	△2,397
(HS部門)	15,205	52.6%	15,691	59.2%	103.2%	485
(ES部門)	4,090	14.1%	3,340	12.6%	81.7%	△750
(環境資源)	9,612	33.3%	7,478	28.2%	77.8%	△2,133
売 上 原 価	16,229	56.1%	14,800	55.8%	91.2%	△1,428
売 上 総 利 益	12,679	43.9%	11,709	44.2%	92.4%	△969
販 管 費	14,247	49.3%	11,113	41.9%	78.0%	△3,133
営 業 利 益	△1,568	—	596	2.2%	—	2,164
経 常 利 益	△1,659	—	495	1.9%	—	2,154
当 期 純 利 益	△1,930	—	△2,547	—	—	△616

■ 売上高は、環境資源部門において、北九州工場の事業譲渡(2007年11月)に伴い、前期比減収要因があったものの、HS部門の売上高が前期比103.2%と回復基調で推移。コスト面では、経営合理化を推し進めてきたこと等により、販管費が3,133百万円減少し、経常損益において黒字に転換した一方で、特別損失として減損損失を計上したことなどにより、当期純損失となった。

SANIX 2

2008年3月期：連結経営指標の推移

(単位：百万円)

連 結	2004/3期	2005/3期	2006/3期	2007/3期	2008/3期
売 上 高	43,987	44,083	36,509	28,908	26,510
営 業 利 益	△4,698	44	△3,382	△1,568	596
営業利益率	△10.7%	0.1%	△9.3%	△5.4%	2.2%
経 常 利 益	△4,661	73	△3,479	△1,659	495
当 期 純 利 益	△7,099	△10,010	△4,252	△1,930	△2,547
純 資 産 額	31,377	20,998	16,657	17,540	14,863
総 資 産 額	55,245	43,664	37,718	32,705	25,957
自己資本比率	56.8%	48.1%	44.2%	53.6%	57.2%
E B I T D A ⁽¹⁾	△822	3,363	△1,827	△179	1,749
純有利子負債 ⁽²⁾	13,316	11,498	10,020	7,201	4,815

(1) EBITDA=営業利益+減価償却費、(2) 純有利子負債=有利子負債-現金及び預金

- 自己資本比率は57.2%にまで回復。
- 総資産は、2004年3月期に対して292億円減少。
主に、固定資産が、減損処理、資産売却及び減価償却などにより269億円減少。
- 純有利子負債は、借入金の返済を進めてきた結果、2004年3月期に対して85億円減少(63.8%減)。

SANIX 3

2008年3月期：四半期毎の業績推移

(単位:百万円)

連 結	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		通 期	
	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比
売 上 高	6,845	76.3%	6,896	105.0%	6,387	93.7%	6,381	97.3%	26,510	91.7%
(HS部門)	4,277	81.5%	4,009	124.4%	3,567	109.7%	3,835	110.3%	15,691	103.2%
(ES部門)	860	70.2%	937	95.1%	781	83.0%	761	81.2%	3,340	81.7%
(環境資源)	1,707	68.6%	1,949	82.7%	2,038	77.7%	1,784	83.2%	7,478	77.8%
売 上 原 価	3,628	80.4%	4,090	97.7%	3,585	94.5%	3,497	93.6%	14,800	91.2%
売 上 総 利 益	3,217	72.3%	2,806	117.9%	2,802	92.7%	2,883	102.1%	11,709	92.4%
販 管 費	2,887	63.2%	2,866	76.7%	2,681	85.0%	2,678	96.2%	11,113	78.0%
営 業 利 益	330	—	△60	—	120	—	205	540.7%	596	—
経 常 利 益	300	—	△68	—	69	—	193	769.7%	495	—
当 期 純 利 益	152	—	△573	—	12	—	△2,138	—	△2,547	—

■ 第4四半期の売上高は、HS部門は前期比10.3%増と堅調に推移した。環境資源部門の売上高においては、北九州工場を事業譲渡(2007年11月)したため、前期に比して焼却処理収入が減少(4Qで約3億円減)した影響もあり、前期比83.2%となった。

SANIX 4

2008年3月期：セグメント別業績推移

(単位:百万円)

連 結	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		通 期		
	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	実績値	前期比	
H S 部 門	売 上 高	4,277	81.5%	4,009	124.4%	3,567	109.7%	3,835	110.3%	15,691	103.2%
	売 上 総 利 益	2,859	76.8%	2,705	129.9%	2,395	107.3%	2,630	110.9%	10,590	101.7%
	販 管 費	1,657	58.6%	1,675	77.4%	1,531	83.5%	1,548	97.3%	6,413	76.2%
	営 業 利 益	1,201	134.3%	1,029	—	863	216.3%	1,081	138.6%	4,176	209.5%
E S 部 門	売 上 高	860	70.2%	937	95.1%	781	83.0%	761	81.2%	3,340	81.7%
	売 上 総 利 益	334	61.4%	357	89.6%	275	73.4%	249	65.0%	1,217	71.5%
	販 管 費	378	64.4%	371	70.0%	348	82.9%	321	85.5%	1,419	74.1%
	営 業 利 益	△43	—	△13	—	△73	—	△71	—	△201	—
環 境 資 源	売 上 高	1,707	68.6%	1,949	82.7%	2,038	77.7%	1,784	83.2%	7,478	77.8%
	売 上 総 利 益	23	12.6%	△256	—	131	31.6%	3	5.5%	△98	—
	販 管 費	294	72.3%	300	77.3%	284	78.3%	291	90.9%	1,171	79.1%
	営 業 利 益	△270	—	△557	—	△153	—	△288	—	△1,269	—
配 賦 不 能	営 業 利 益	△557	—	△518	—	△516	—	△516	—	△2,109	—

SANIX 5

SANIX

株式会社 **サニックス**

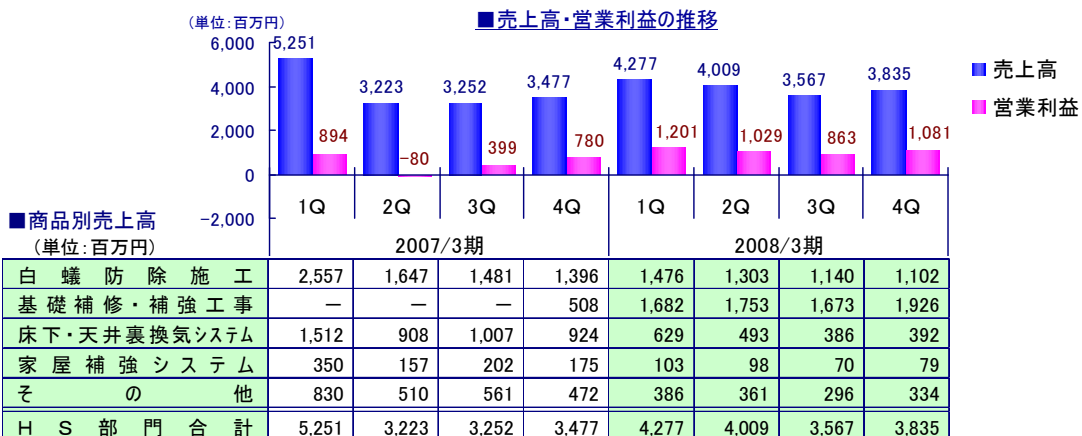
2008年3月期 セグメント別ハイライト

2008年3月期：HS事業部門ハイライト

HS事業部門

■ 2006年7月の行政処分以降続いた業績低迷は底を打ち、回復基調で推移。

顧客の信頼回復のために、コンプライアンスの徹底を最優先課題として取り組んできた。約2年間の時間と労力を費やしてきた結果、顧客本位の営業が現場社員にまで浸透。これにより、昨年2月から販売開始した新商品「基礎補修・補強工事」が、顧客に受け入れられ好調な販売を維持。この結果、2008年3月期の売上高は堅調に推移し、前期比3.2%プラスに転じた。

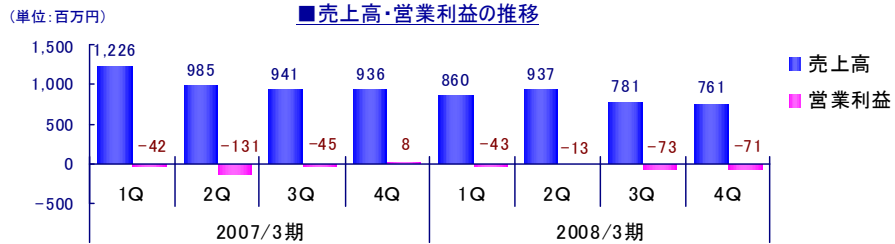


2008年3月期：ES事業部門ハイライト

ES事業部門

■ 不動産管理会社等を対象とした法人営業へ事業戦略を変更

HS事業部門が受けた行政処分の影響を受け、ES事業部門も業績が低迷していたため、営業の効率化と将来の業績拡大を図る目的で、昨年10月より、従来の個人オーナーを対象とした営業から、ビル・マンションの不動産管理会社等の法人を対象とした営業に事業戦略を変更。しかしながら、個人オーナーと違い契約・施工までに時間を要することから、業績寄与までには至らなかった。



■ 商品別売上高 (単位: 百万円)

	2007/3期				2008/3期			
防錆機器取付施工	371	191	170	290	232	223	137	201
建物給排水補修施工	348	377	350	254	243	269	248	251
建物防水塗装補修施工	205	170	159	132	122	198	157	100
その他	301	246	261	259	262	246	237	208
ES部門合計	1,226	985	941	936	860	937	781	761

※ES事業部門における「活水器取付施工」は、2008年3月期より「防錆機器取付施工」に名称を変更。

2008年3月期：環境資源開発事業部門ハイライト

環境資源開発事業部門

■ 苫小牧発電所の火災事故(2007年2月)の影響が長引き前期比マイナス

火災事故等で操業停止した影響により、「売電収入」は369百万円減収、また、発電停止に伴いプラスチック燃料の在庫抑制のため受入制限を実施したことで「廃プラ加工処理」も863百万円減収となった。

■ 北九州工場の事業譲渡(2007年11月)による減収

事業譲渡に伴い「焼却処理」は、前期売上高に対して683百万円の減収。



■ 商品別売上高 (単位: 百万円)

	2007/3期				2008/3期			
廃プラ加工処理	1,216	1,225	1,382	1,239	993	983	1,175	1,048
売電収入	401	263	386	86	7	249	236	276
有機廃液処理	569	519	497	518	454	465	509	459
焼却処理	301	346	356	298	252	251	115	-
環境資源合計	2,489	2,355	2,623	2,144	1,707	1,949	2,038	1,784

SANIX

株式会社 **サニックス**

2009年3月期 連結業績見通し

中期経営計画「Spring plan 2010」(2008年4月22日公表)

～ 中期経営計画「Spring plan 2010」の目的 ～

企業体質の変革 実現可能性の高い事業計画とコンプライアンスに基づいた経営へ。
結果として、2011年3月期に営業利益率10%を達成し、**高収益企業への復活**を実現

■ 数値計画

(単位:百万円)

	2008/3期 実績	2009/3期 計画	2010/3期 計画	2011/3期 計画
売上高	26,510	29,297	30,728	31,520
H S 部門	15,691	16,154	16,421	16,602
E S 部門	3,340	3,504	3,594	3,697
環境資源部門	7,478	9,638	10,713	11,220
営業利益	596	1,922	2,740	3,164
営業利益率	2.2%	6.6%	8.9%	10.0%
当期純利益	△2,547	1,680	2,606	3,029
減価償却費	1,153	1,010	902	814
EBITDA ⁽¹⁾	1,749	2,932	3,642	3,977
純有利子負債 ⁽²⁾	4,815	3,020	△1,526	△4,538

(1) EBITDA=営業利益+減価償却費、(2) 純有利子負債=有利子負債-現金及び預金

2009年3月期：経営目標

中期経営計画「Spring Plan 2010」の初年度として計画達成を目指す

HS事業部門

引き続きコンプライアンスを徹底し顧客満足向上を図る

- 設立30周年販売キャンペーンを実施し、顧客基盤の拡大を図る
- 他社との連携を含めた、訪問販売以外の営業方法の確立を目指す

経営目標

全事業部門での収益化を実現
早期復配を目指す

ES事業部門

法人営業体制を確立し黒字回帰

- 不動産管理会社等へ積極的に営業展開
- 前期の店舗統廃合効果により収益性が向上

環境資源部門

安定操業・外販拡大で黒字を確保

- 発電所の安定操業により黒字転換を図る
- プラ燃料の外販拡大により収益性が向上

SANIX 10

2009年3月期：通期業績見通し

(単位：百万円)

連 結	第2四半期累計				通 期			
	計画値	売上比	前期比	前期比 増減額	計画値	売上比	前期比	前期比 増減額
売 上 高	14,256	100.0%	103.7%	513	29,297	100.0%	110.5%	2,786
(HS部門)	8,270	58.0%	99.8%	△17	16,154	55.1%	103.0%	463
(ES部門)	1,683	11.8%	93.6%	△114	3,504	12.0%	104.9%	163
(環境資源)	4,301	30.2%	117.7%	645	9,638	32.9%	128.9%	2,159
売 上 原 価	7,796	54.7%	101.0%	77	15,545	53.1%	105.0%	744
売 上 総 利 益	6,460	45.3%	107.2%	436	13,752	46.9%	117.4%	2,042
販 管 費	6,168	43.3%	107.2%	415	11,829	40.4%	106.4%	715
営 業 利 益	291	2.0%	107.8%	21	1,922	6.6%	322.5%	1,326
経 常 利 益	275	1.9%	118.4%	42	1,882	6.4%	380.1%	1,387
当 期 純 利 益	227	1.6%	—	649	1,680	5.7%	—	4,228

■ 第2四半期累計の売上高は、主力事業であるHS部門は前期並で推移すると見込む。環境資源は前年同期において、発電所の火災事故並びに定期修繕で操業停止期間が長かったことなどにより、前期比17.7%増を見込む。通期では、売上高が各事業部門ともに前期比増収を見込んでおり、結果として、当期純利益の黒字転換を見込む。

SANIX 11

2009年3月期：四半期の業績見通し

(単位:百万円)

連 結	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		通 期	
	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比
売 上 高	6,905	100.9%	7,351	106.6%	7,619	119.3%	7,421	116.3%	29,297	110.5%
(HS部門)	4,097	95.8%	4,173	104.1%	3,896	109.2%	3,987	103.9%	16,154	103.0%
(ES部門)	790	91.8%	893	95.3%	895	114.6%	924	121.5%	3,504	104.9%
(環境資源)	2,017	118.2%	2,283	117.2%	2,826	138.7%	2,510	140.7%	9,638	128.9%
売 上 原 価	3,744	103.2%	4,052	99.1%	3,880	108.2%	3,868	110.6%	15,545	105.0%
売 上 総 利 益	3,160	98.2%	3,299	117.6%	3,738	133.4%	3,553	123.2%	13,752	117.4%
販 管 費	3,255	112.8%	2,913	101.6%	2,789	104.0%	2,871	107.2%	11,829	106.4%
営 業 利 益	△94	—	385	—	948	786.8%	682	332.4%	1,922	322.5%
経 常 利 益	△105	—	380	—	930	—	677	349.9%	1,882	380.1%
当 期 純 利 益	△129	—	357	—	799	—	653	—	1,680	—

■ 第1四半期は、売上面では、HS部門において4月の稼働日数を3月に2日シフトした影響と、4月から後期高齢者(75歳以上)契約に際してクーリングオフ期間経過後に着工するように自主規制を変更した影響などにより、4月度の売上が減収となった。コスト面では、シロアリ防除の繁忙期のため、テレビCM等を積極的に展開し、広告宣伝費として約4億円を計画。このため販管費が前期比12.8%増となり営業損失を見込む。

■ 第2四半期以降は、各事業部門ともに堅調な業績推移を見込む。

SANIX 12

2009年3月期：セグメント別業績見通し

(単位:百万円)

連 結	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期		通 期		
	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比	計画値	前期比	
H S 部 門	売 上 高	4,097	95.8%	4,173	104.1%	3,896	109.2%	3,987	103.9%	16,154	103.0%
	売 上 総 利 益	2,677	93.7%	2,801	103.6%	2,604	108.7%	2,665	101.3%	10,749	101.5%
	販 管 費	1,984	119.7%	1,723	102.9%	1,597	104.3%	1,657	107.0%	6,962	108.6%
	営 業 利 益	693	57.7%	1,078	104.7%	1,006	116.6%	1,008	93.3%	3,787	90.7%
E S 部 門	売 上 高	790	91.8%	893	95.3%	895	114.6%	924	121.5%	3,504	104.9%
	売 上 総 利 益	302	90.5%	343	95.9%	345	125.5%	357	142.9%	1,348	110.7%
	販 管 費	330	87.2%	334	90.1%	333	95.8%	339	105.8%	1,338	94.3%
	営 業 利 益	△27	—	8	—	11	—	17	—	10	—
環 境 資 源	売 上 高	2,017	118.2%	2,283	117.2%	2,826	138.7%	2,510	140.7%	9,638	128.9%
	売 上 総 利 益	179	776.3%	153	—	788	599.1%	530	—	1,653	—
	販 管 費	284	96.6%	297	98.8%	302	106.0%	300	103.0%	1,183	101.1%
	営 業 利 益	△104	—	△143	—	486	—	230	—	469	—
配 賦 不 能	営 業 利 益	△656	—	△558	—	△556	—	△573	—	△2,344	—

SANIX 13

2009年3月期：業績見通しハイライト

2009年3月期における業績見通しのキーポイント

1. 限界利益率の高いHS事業の業績推移の見通し

・新規顧客開拓を再開

新規契約件数は、テレビCMの再開、値引きキャンペーンの実施、未成約顧客への効率的な勧誘、保証切れ顧客の掘り起こし、JA等との提携による紹介案件獲得等の施策により回復を見込む。

・「基礎補修・補強工事」が前期並に堅調な推移

2009年3月期は、既存顧客を対象に「基礎補修・補強工事」の販売を始めてから2年目となるが、既存商品の新規導入時における販売実績の推移をベースとし、足元の販売実績推移並びに顧客データ等を分析した結果、引き続き堅調に推移すると見込む。

2. 環境資源部門における収益化の見通し

・売電先を変更し、苫小牧発電所の収益性が大幅に改善

売電先変更に伴い売電単価が約2倍となり、安定操業することで収益性が大幅に改善(6月以降)。

・プラスチック燃料の外販が拡大

原油、石炭価格の高騰により、プラ燃料の需要が拡大。9月より製紙メーカーへの供給増量を予定。

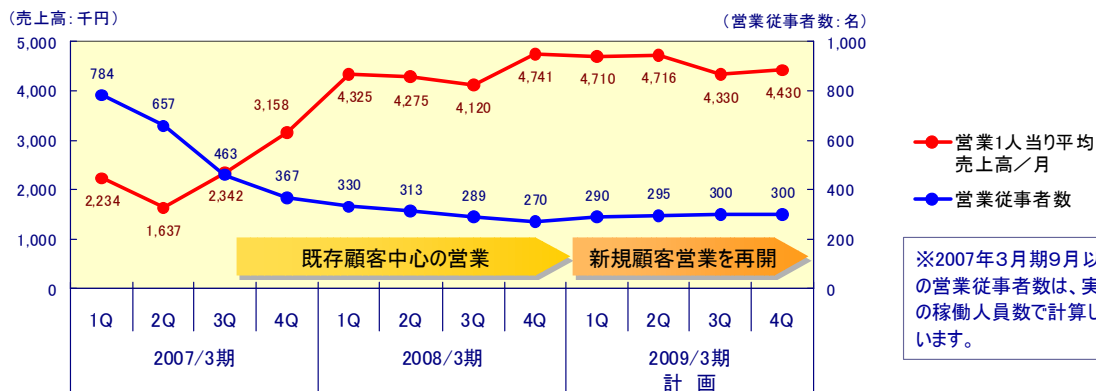
2009年3月期：業績見通しハイライト

HS事業部門の生産性見通し

■ コンプライアンスの徹底に基づいて営業生産性を維持

新規顧客営業の再開に向け、営業人員約30名の増員を計画。営業生産性においては、前期に引き続き、営業1人当たり月間売上高が4百万円台で推移することを見込む。

■ 営業1人当たり月間平均売上高・営業従事者数の推移



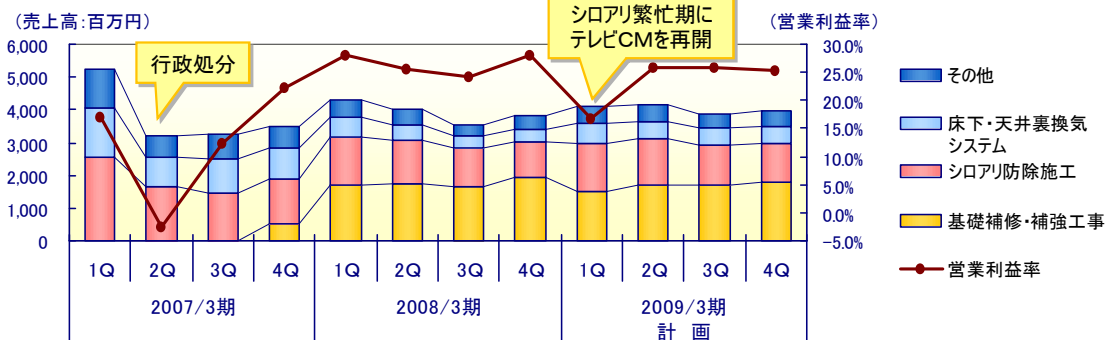
2009年3月期：業績見通しハイライト

HS事業部門の商品別見通し

■ 5年保証のシロアリ防除を中心に新規顧客の獲得を図る

実質的に、新規顧客に対する営業を行っていない2008年3月期の受注件数をベースとし、繁忙期を中心に集中的に広告宣伝を行い、複合的な販売キャンペーンを実施することで「シロアリ防除施工」において新規顧客獲得を見込む。新商品「基礎補修・補強工事」の2年目の販売見通しは、1年目と比較して横ばいで推移すると想定。

■ 商品別売上高・営業利益の推移



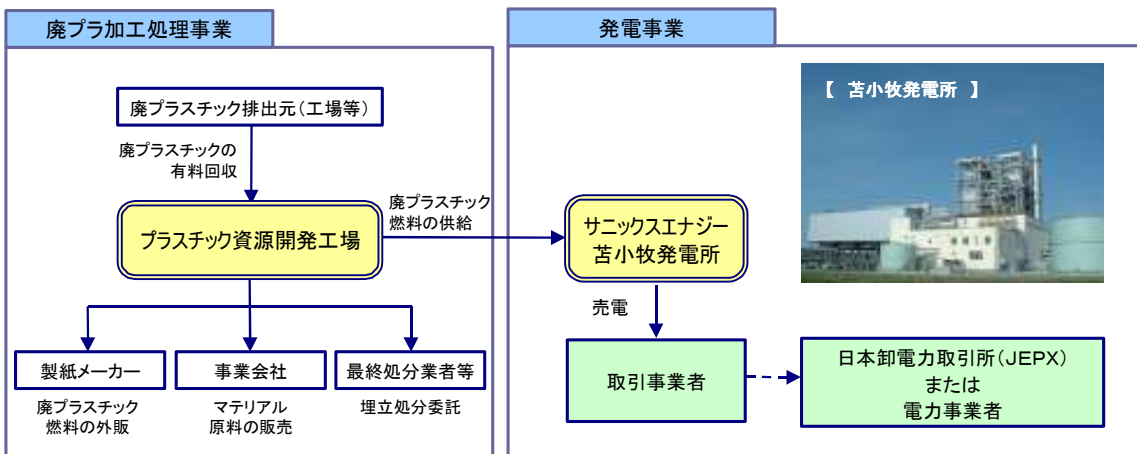
新商品「基礎補修・補強工事」を販売

SANIX 16

2009年3月期：業績見通しハイライト

資源循環型発電事業の事業構造

※売電先変更後のフロー(6月以降)



■ 売電先変更により収益性が大幅改善し、循環型発電事業が黒字転換

現在は電力会社に売電しているが、今年5月より北海道から本州へ送る送電量の規制が緩和されるのに伴い、全国規模の卸電力取引市場などへの売電が可能となるため売電先を変更。売電単価設定が約2倍に上がるため、約4割の稼働率で安定稼働することにより収益化が見込める。

SANIX 17

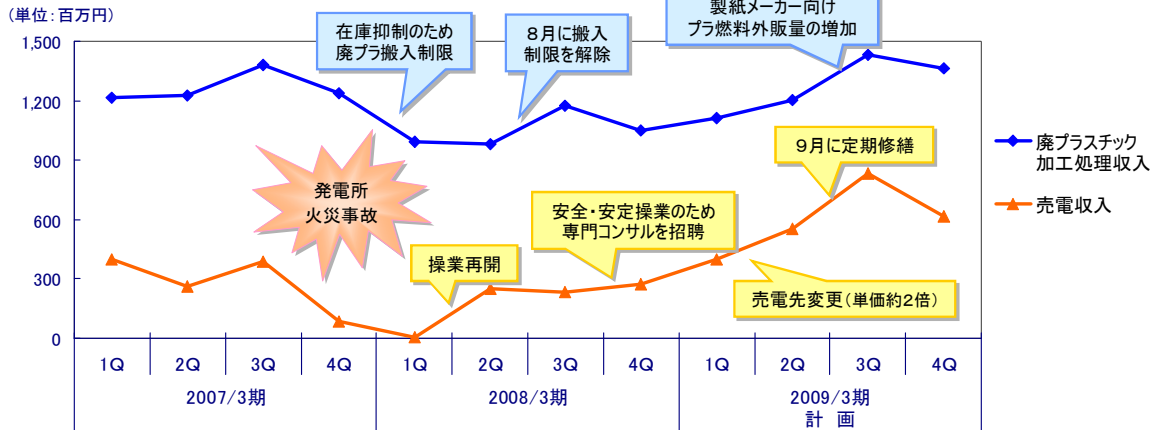
2009年3月期：業績見通しハイライト

資源循環型発電事業の見通し

■ 第2四半期より資源循環型発電事業の業績が改善

売電先の変更に伴い、第2四半期より本格的に発電事業の売上高が増加。9月の定期修繕により約1ヶ月間操業を停止するため、第2四半期は営業損失を見込むものの、下半期からは黒字を見込む。

■ 資源循環型発電事業の売上高の推移



2009年3月期：業績見通しハイライト

廃プラスチック加工処理事業の見通し

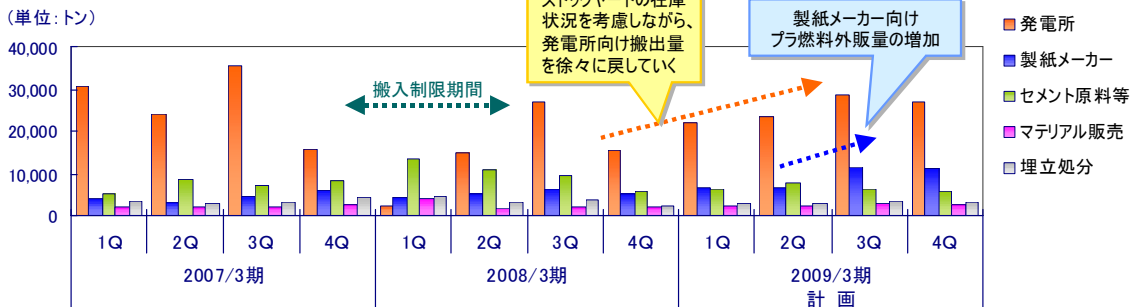
■ 搬入制限の解除以降、廃プラスチック搬入量は回復基調で推移

搬入制限の協力依頼をした企業に対して、再契約搬入による取り込みを進め、廃プラスチック搬入量は回復基調で推移。当社の強みである営業力を生かし、廃プラ収集を積極的に進めていく。

■ プラ燃料の需要拡大により、外販量の増加を見込む

9月から製紙メーカーに対して販売量が増加。他からもオファーがきており、プラ燃料の販路拡大に注力する。各プラ工場近郊にて外販先を確保できるため、これまで苫小牧発電所(北海道)まで運んでいたコストが低減され、第3四半期から収益性が改善。

■ プラ工場からの搬出先別数量の推移



2009年3月期：業績見通しハイライト

販売費及び一般管理費の見通し

■ 全体の販売費及び一般管理費は、2008年3月期に対して6.4%増加を見込む

(単位:百万円)

連 結	2005/3期	2006/3期	2007/3期	2008/3期	2009/3期 計 画
売 上 高	44,083	36,509	28,908	26,510	29,297
前 期 比	100.2%	82.8%	79.2%	91.7%	110.5%
販売費及び一般管理費	21,421	19,844	14,247	11,113	11,829
売上高対販管費比率	48.6%	54.4%	49.3%	41.9%	40.4%
前 期 比	84.1%	92.6%	71.8%	78.0%	106.4%
前 期 比 増 減 額	△4,062	△1,577	△5,597	△3,133	715
期 末 従 業 員 数 (名)	3,026	2,838	1,822	1,579	1,695

(販管費内訳)

広 告 宣 伝 費	1,021	808	757	454	582
人 件 費	12,985	12,296	8,268	6,709	7,145
賃 借 料	1,813	1,689	1,492	1,116	1,042
通 信 交 通 費	834	747	580	441	456
そ の 他	4,766	4,301	3,149	2,391	2,603

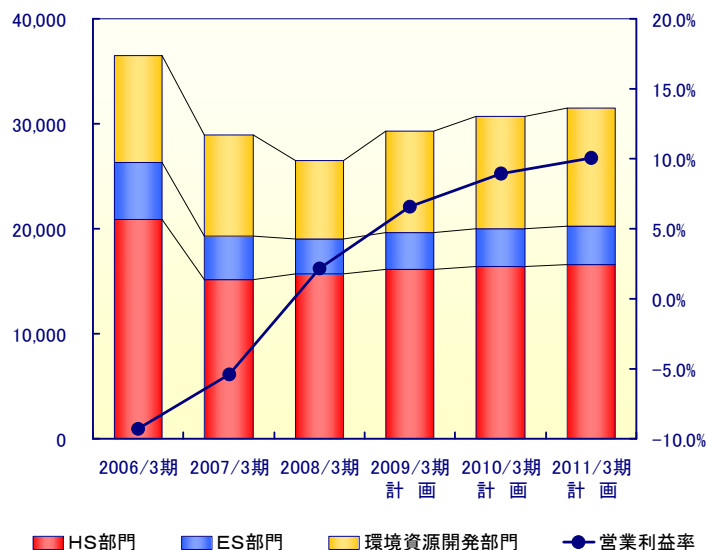
SANIX 20

2009年3月期：インベストメントハイライト

■ 売上高・営業利益率の推移

(売上高:百万円)

(営業利益率)



2009年3月期見通し

売上高 29,297百万円

営業利益 1,922百万円
(営業利益率 6.6%)

経常利益 1,882百万円

当期純利益 1,680百万円

SANIX 21

免責事項

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報に基づく判断に基づくものです。従いまして、将来時点における実際の収益及び業績は、こうした将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

以下の要因により、将来時点における当社の業績は、本資料内の将来の業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、日本のサービス業の業績動向、他のサービス業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の弊社の予測を超える様々な要因

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。